

クイズに答えて素敵な商品をGET

Q 1月の大相撲初場所で大関の琴奨菊が、日本人力士として10年ぶりに優勝したことは、記憶に新しいと思います。けがに苦しみ一時は引退も考えながら、ひたむきに前に出る相撲を取り続ける姿に皆さんも感動されたと思います。今回は初優勝をした琴奨菊関からの問題です。琴奨菊関は福岡県柳川市の出身だそうですが、次の力士のうち福岡県出身は誰でしょうか？



- ① 稀勢の里 ② 豊ノ島 ③ 魁皇

応募方法 プレゼントの応募方法 ⑦ 大関霧島監修「ちゃんこ鍋のスープ」 10名
同封のハガキ解答欄に ⑧ 姿絵手形色紙 10名
⑨ 回答をご記入の上、御返信下さい。 ⑩ 歴代横綱湯呑 10名

応募期間 2016年4月30日(土)(消印有効)まで
当選発表 賞品の発送をもって当選とさせていただきます。

皆様のご応募
お待ちしております

社員紹介



松尾 誠也 (まつお・せいや)

生年月日 今年から営業部のお客様係になりました松尾誠也です。1991年2月1日
血液型 一昨年の4月に長崎の美家、石材店から修業として入社し、昨年までは工務部の現場で経験を積んできました。その現場での経験を活かし、お客様のお力になれるよう日々精進していきます。
マイブーム ダーツ、映画鑑賞



松村 俊也 (まつむら・としや)

生年月日 昨年の3月に営業部に入社した松村俊也です。1975年4月19日
血液型 休日にはもっぱら趣味の料理にハマっています。和食から洋食まで友人にふるまう事が喜びです。お墓の奥深さに魅了されて、日々発見の毎日です。
マイブーム 料理、ジョギング

ご意見・ご感想・質問などどんなことでもお便り下さい。

創業300年 技術の

◆ 國松石材株式会社

平尾店 / 福岡市中央区平和3丁目12-27 (平尾霊園下)
TEL 092-401-4194 FAX 092-401-4189
工場 / 福岡市東区松田3-6-12
TEL 092-629-1189 FAX 092-629-2043

<http://www.kunimatu.com> 国松石材 検索

編集後記

今回ご紹介した町名散歩「粕屋町戸原」ですが、伊賀薬師堂、伊賀駅と「伊賀」がよく使われてました。

なぜ「伊賀」なのかまではたどりつけませんでした。

またゆっくり調べていけたらと思います。

(國松祥治・田中俊晴)

松ぼっくり

- 1 季節の小話
- 2 お墓の相談室「疑問・質問にお答えします」
- 3 第30回 町名散歩「戸原」
- 4 お墓参りっていいね！
「お墓参り」の感動的なエピソード
第6回 女優・南果歩さん
- 5 お客様からの声
- 6 お墓のなるほど講座
- 7 國松さん、今なんしようと？
國松石材スタッフ紹介
- 8 クイズに答えて素敵な商品をGET！



季節の小話 申年

今年^{さる}は申年。申年にちなむ神社といえば、やはり栃木県の「日光東照宮」だと思います。

日本を代表する世界遺産「日光の社寺」の中でもっとも有名な「日光東照宮」は、徳川家康がまつられた神社で、現在の社殿群は、そのほとんどが寛永13年3代将軍家光による「寛永の大造替^{だいそうたい}」で建て替えられたものです。境内には国宝8棟、重要文化財34棟を含む55棟の建造物が並び、その豪華絢爛な美しさは圧巻です。全国各地から集められた名工により、建物には漆や極彩色がほどこされ、柱などには数多くの彫刻が飾られています。その中には有名な「見ざる、言わざる、聞かざる」の三匹のサルの彫刻もあります。

昨年、家康公の没後400年式年大祭の節目を迎え、徳川家三代将軍家光公の廟所である日光山輪王寺大猷院では、安置されている歴代将軍の位牌のなかで、今年初めて家康公の御位牌が一般公開されるようです。歴史的なこの行事をぜひご覧になってはいかがでしょうか。



Q&A

お墓の相談室 疑問・質問コーナー

お墓の雑草対策特集 Part2

土間コンクリート仕上げ編

前回は防草シートをご紹介しましたが、今回はもう一段階上の工事のご紹介をします。防草シートは地面と上に撒き玉砂利等の間にシートを敷いて草が生えるのを防ぐ方法でした。ただ、草は“雑草魂”と言われるようにしぶとく生きてきます。防草シートの場合、しっかりと敷いていても年数が経過すると飛散した種子が隙間から生えてくる可能性があります。しかし今回ご紹介する土間コンクリート仕上げは、お墓の土間をコンクリートで覆いますので、種子が根付くことも草が生えることもありません！それではさっそくご紹介いたします。

1 何も手を入れてないと草が生えてしまいます。皆さんのお墓はいかがですか？



2 まずは土をすき取り、高さを合わせ、下地の碎石を敷き詰めます。



これで面倒な草むしりには苦勞しませんね。防草シートよりもより強固な土間コンクリート施工の完成です。



3 次にその上にメッシュ筋(鉄筋)を敷き、土間コンクリートを打設します。土間は隙間なく丁寧に塗り上げます。



4 さあ完成です。土間の仕上げは、金ゴテ仕上げと刷毛引き仕上げという仕上げ方法がありますが、その他にもいろいろと提案できます。



それでは全体のBefore・Afterをご覧ください。

今回モデルとして紹介させていただいた梅原様ご協力をありがとうございました。



作業前 (Before)



作業完了 (After)

お見積もりは無料ですのでお気軽にお問い合わせください。

國松さん、今なんしようと？

『ゴリラの彫像をクリーニング清掃奉仕』 ～福岡市動物園～

福岡市動物園に設置してあるゴリラの彫像「座れるゴリラの彫像」を昨年の12月14日にクリーニング清掃奉仕をしました。

ゴリラの彫像は2008年に福岡那の津ライオンズクラブが結成30周年記念事業として寄贈されたもので、博多人形師の中村信喬氏が製作し、弊社が製作協力をした石像です。

彫像は当時園内で人気者の雄ゴリラ「ウイリー」をモデルにした、高さ2m、重さは約5tの南アフリカ産黒御影石製で、ゴリラの腕の間に座ることができ、動物園でも人気が高く子供たちも気軽に触れられて家族の記念撮影スポットになっています。

彫像は設置されてから7年を経過し汚れが目立ち始めたので、製作協力をしたご縁で当社の墓石クリーニングの技術を生かして作業をしました。

清掃作業は彫像の後方、貝塚(植栽)の剪定から、高圧洗浄機による水洗い、ブラシと専用溶剤により、汚れやコケを落としました。

作業が完了し「7年ぶりに“お風呂”に入って綺麗になったゴリラ」を見て、これから来園する家族連れや子供たちの笑顔思い浮かべては何か心地よい歳末の1日でした。



1 クリーニング前

Before



3 テレビ局、新聞社の取材も受けました



2 洗浄作業



4 クリーニング完了!

After

福岡市動物園 福岡市中央区南公園1-1 クリーニング担当/古賀陽一 企画担当/國松祥治・木村圭蔵

國松石材スタッフ紹介



7年前に設置された時に家族で見に来たことを思い出しました。普段担当している墓石クリーニングの技術を生かして、ゴリラの石像を綺麗にすることができました。これからまた多くのご家族の笑顔が見られると思うと嬉しいです。

工務部 古賀 陽一

- 生年月日 / 1965年2月8日生まれ
- 資格 / 玉掛け技能講習修了
- 血液型 / A型
- 最近楽しんでいること / 古着屋めぐり

お墓のなるほど講座

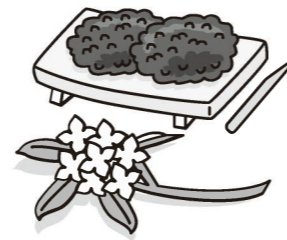
暑さ寒さも彼岸まで…いつの間にかもう春ですね。

今年は暖冬に突然の大寒波で皆さんも大変だったのではと思います。

さて、今回は“お彼岸”に関することをご紹介します。

お彼岸は、仏教に関わる考え方なのですが、仏教はインドから中国、朝鮮半島を経て日本に伝わって来たのですが、お彼岸に先祖供養をする習慣は日本にだけあって外国にはない日本独自の習慣です。

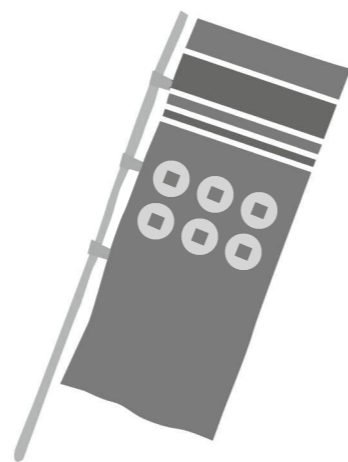
ではなぜお彼岸に先祖供養をするのでしょうか？



それは春分と秋分には太陽が真東から昇り、真西に沈むので西方にある極楽浄土のご先祖様を偲ぶのにふさわしい日だからです。

「彼岸」という言葉は向こう岸、“彼（か）の岸”のことを意味し、死後の世界を極楽浄土ととらえ、また煩惱に満ちた此方の世界を「此岸」といいます。彼岸に旅立ったご先祖様に思いを馳せ、同時に自分たちも極楽浄土のような理想に到達できるように修行をするのが彼岸会という仏教行事です。仏教の教えでは日々の悩みや苦しみに埋没してしまわないように極楽浄土に思いを馳せ、ご先祖様から脈々と続く命の尊さを半年に一度再確認するのにいい機会ではないでしょうか。

余談ですが、今年のNHK大河ドラマ『真田丸』は視聴率も良いようですね。その主人公である真田幸村（信繁）が使用して一躍有名になった旗標“六連銭”。これは三途の川…所謂あの世への渡し銭、六道銭（六文銭）から意匠を得ているのだそうです。戦いに行く者が掲げる旗標に使うということは、決死の覚悟の表れだと思えます。そういった覚悟をしていた当時の人の想いを感じ、偲ぶことも一つの先祖供養となるような気がします。



戸原

今回は粕屋町戸原にある伊賀薬師堂境内【東園寺跡】を散策してきました。

伊賀薬師堂は今から1200年前の延暦24年（805年）に、天台宗の開祖である伝教大師最澄が唐【中国】から帰国して、立花村【現在の新宮町】で独鈷寺

を開き、薬師如来像2軀を彫刻したとされ、1軀は独鈷寺に安置して、もう1軀をこの地に寺を建立してお祀りしました。これが瑠璃山東園寺の始まりとされています。

開基当時の東園寺は広大で、諸堂・僧坊を備えた大伽藍だったようです。

当時の伽藍の広さは、現在残っている寺田・御堂ノ原・瓦ヶ田などの字名から推測することができ、その当時の繁栄を物語っています。

天正14年（1586年）に島津軍が立花山城を攻めたときに、兵火にかかり焼失してしまいました。幸い本尊は無事であったため、その後戸原村の大庄屋であった長徳右衛門（JR伊賀駅の傍に長徳右衛門の記念碑あり）が本堂を、その息子の半七が薬師如来像と十二神将の修復を行いました。また、享保の飢饉などによって再び荒廃の危機に陥ったときは、戸原村庄屋【再建時の役職、後に大庄屋】長卯平により本堂が再建されました。

現在の姿に建替える前は、長卯平による再建時の面影を残していましたが、その当時の意匠は、新しくなった現在の薬師堂（平成20年建築）にも引き継がれています。

東門寺跡という伊賀薬師堂境内には、薬師堂、大般若波羅蜜多經六百巻収蔵庫（有形文化財）、奉書写大乗妙典一石一字経供養塔（江戸時代元文3年（1738年）に建立され「享保の飢饉」による犠牲者をとむらうために建てられた供養塔）、阿弥陀三尊梵字板碑（鎌倉時代後期、元亨3年（1323年）に建立され、町内で確認されている石塔類で最も古い）などがあります。薬師堂は、地域行事の日を開扉され、薬師如来像と十二神将像が目前で見ることができるようです。その他に天然記念物のクスノキや相撲の土俵などもあります。なお、薬師堂境内右手の観音堂は粕屋郡中三十三観音の第二十七番になっています。粕屋郡中三十三観音には「年々に 来る心の いかなれば はしりて払ふ 山本の塵」御詠歌もあります。

狭いながらも見どころ満載の伊賀薬師堂、そして粕屋郡中三十三観音。ぜひこの機会に参拝に訪れてみてください。



薬師堂



観音堂

「お墓参り」の感動的なエピソード

第6回 女優 南 果歩さん

お墓参りっていいね！

「冬来たりなば春遠からじ」

南 果歩著『瞬間幸福』(文化出版局)より

父の三十三回忌が近づいていた。

両親の離婚後は父方の親戚とも縁が途絶えていたが、京都のお寺に父のお墓参りに行く度に父方の祖父母や親戚のお墓にも手を合わせていた。

父のお墓参りと言ってもお骨をお寺に預かっていただけで、実際には土には還っていないのだ。父の両親のお墓は同じお寺にあって、墓石には韓国式に夫婦の名が刻まれていて、先祖代々のお墓ではなかったの、父はそこには入れなかった。

お寺を訪れる度に大好きだったお酒とお線香を供えることぐらいしかできないままに月日は過ぎてしまっていた。小さい頃からお世話になっていた叔母を通して、細々と父のお墓に関してのお願いをしてきたが、一旦途絶えた本家との話は遅々として進まず、私達姉妹も時期を待つしかないと思っていた。

しかし三十三回忌だ。私はいつそのこと東京に父のお墓を建てようと、四人の姉達に集まってもらい家族会議を開いた。私の夫も次男、ゆくゆくは東京にお墓を建てようと夫婦で話していたので、父のお墓と私達のお墓を隣同士に建てる計画を立てた。

そうすれば、私の息子が二つのお墓を守ることができるし、父も淋しくないだろうと考えたからだ。もう一方の隣に母のお墓を考えたが(母が聞いたら激怒するだろう)、離婚した元夫婦が近くで眠るのはお互いによろしくないだろうと、それはまたの議題となった(私としてはナイスなアイデアだったのだが)。

善は急げだ。父のお骨を動かす許可を得るため、お寺さんと叔母に連絡を取った。そうこうしていると、伯父さんが亡くなられた後に本家を継いだ従兄弟のお兄さんから連絡が欲しいと言われた。お兄さん直々の話とは一体なんだろうと、私達は実の所ドキドキしていた。

本当に久しぶりに話をしたお兄さんの声はとても温かくて、京都のお墓を建て直すことを快く承知したいという、私達にとっては一番ありがたい言葉を頂いたのだった。そこで父のお骨東京移動計画は即刻消え、晴れて父は自分の両親と共に眠れることになったのだ。

父の命日に京都のお寺に五姉妹が集まることになっていたの、その前に尼崎のお兄さんの家に改めてご挨拶に伺うことにした。

昔私達が住んでいた尼崎の家の近くの公園まで迎えに来てくれていたお兄さんは、六歳の頃に会ったきりだったが、スラッと背が高く優しい印象はその当時のままだった。家にお邪魔させていただくと、従兄弟のお姉さんや叔母も集まって歓迎してくださり、積年のわだかまりが一気にとけていくようだった。

お兄さんは、甥としても私達の父のお墓のことはずっと気になっていて、いづれ両親と共に安らかに眠って欲しいと思っていたと話してくれた。親の都合で行き来はなくなっていたけれど、これを機に、いつでも訪ねて来て欲しいと言ってくださった。

こんな時も私は息子に同行させる。初めて会う親戚、初めて交わす言葉、でも二回目からは積み重なっていく。人は直接会って話をするものだと、今回は本当に教えられた。

親は亡くなって何年経っても、子供にこんなことを教えてくれるものなのかと、お寺で読経を聞きながら父と長く話ができたと感じた。息子は正座で足がしびれながらも、何とか真面目に座ろうとよく頑張っている。(後略)



(文化出版局) 発行日：2010年4月30日

お客様の声

國松石材とご縁をいただいたお客様の温かいメッセージをご紹介します

「願いを聞いてもらい、立派な新居が出来ました。」

横浜市にお住まいの石田様

我が家の墓は祖父が亡くなり、祖母が急ぎ平屋愛園を申し込みに作られた墓だと聞いています。当時はおしりな壁の墓でしたが、洗い出しを施して、サラサラのブロック囲いで、その上三段の急な階段で両脇に木を植えるポットが作ってあり、墓石の周りにはジャリが入れてありましたが、長年の歳月で土になり草むしりで大変な思いをいたしました。現在横浜に住んでますので、姉のほうにお願いしてましたが、それも大変でした。突然息子が他界し、四十九日法要、納骨の途、いづれお世話になっている國松石材様に法名塔に戒名を彫ってもらおうとお店の方に出向きました所、数点の見本の墓石が目に付きお安い値段に引かれ、即座にリフォームすることに決めました。まず、草が生えない様、写を取っても危なくない広目の階段をお願いしました。メール、パソコン、スマホ等の写真で連絡を取り、一度も福岡に帰ることなく立派なお墓が完成しました。始めに予算を申し上げ、予算内で完成していただき思事開眼法要も済ませることが出来、本当に感謝しています。祖父母、主人、息子と四人手を取り、新しい家に入ることが出来ました。私はもう少しゆっくりしたいと思っております。現在4才。本当に親身になり私の願いを聞いてもらい、立派な新居が出来ました。新居には明り取りもあります。本当に本当にありがとうございました。



リフォーム前のお墓



新しいお墓

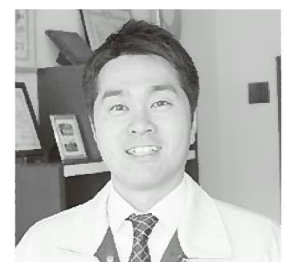


開眼法要の様子

担当者から一言

石田様が息子様の銘の彫刻依頼でご来店いただいた時に、お墓の相談があり、すぐに現地に向かいました。展示しているお墓をメインに大きさが入るかどうか、また石田様のご希望に応えるために色々デザインを悩みました。写真をご覧になってわかるように、以前の墓石に比べると随分と様変わりしていることがわかって頂けるとは思いますが、お参りがしやすいように階段の幅を広く、蹴上げ(階段の高さ)を低く設計し、お参りの際に掃除をしやすくするために敷石貼り、外柵を踏み台と兼ねて一体型にしました。

ご満足していただけるお墓になり、私も嬉しいです。お墓は建ててからが本当のお付き合いの始まりだと思っております。これからも末永いお付き合い、よろしくお願いいたします。



くにまつしょうじ お客様係 國松 祥治